

JASIS 2018 見聞録

千葉県の幕張メッセにおいて分析機器・科学機器の展示会 JASIS 2018 が9月5日（水）から7日（金）の日程で行われました。JASIS（=Japan Analytical & Scientific Instruments Show）は、2012年の第50回分析展（日本分析機器工業会）と第35回科学機器展（日本科学機器協会）を機に、合同展の統一名称として決められたものです。開催規模は、展示面積 33,969 m²、出展社数は 494 社（機関）、小間数は 1,462 小間となり、アジア最大級の分析機器・科学機器展示会へと成長しました（写真1）。来年には関西でも初めて JASIS 関西 2019 が、2019年2月5日（火）～7日（木）にグランキューブ大阪（大阪府立国際会議場）にて行われます。

今年は合計 23,697 人の入場者があり、うち海外からは 527 名の来場がありました。内訳を見ますと4日（カンファレンスのみ）が 149 名、5日が 7,663 人、6日が 8,024 人、7日が 7,861 人でした。展示会初日の5日は台風の影響で例年よりも入場者数が約 15% 少なくなったとのことです。

今回の JASIS 取材のため6日にお伺いしました。9時半過ぎの時点で、会場入口付近には多くの来場者が10時からの開場を待っており、限られた時間で多くの情報を持って帰ろうという来場者の意気込みが感じられました。まず10時に事務局本部を訪ね JASIS 委員会委員長の長谷川武義様、技術委員会委員長の杉沢寿志様、事務局長の片岡信義様から JASIS 2018 の概要や特徴を伺いました。その後、約1時間かけて、委員長の長谷川様に会場を案内いただきました。

今年のキャッチフレーズ「未来発見。(Discover the Future)」。JASIS が日本ならではの高度で繊細な技術や物づくりの発想があふれる場であること、この分野のアジア最大級の展示会としてイノベーションを生み出し、将来のビジネスの発展につながる発見がある場であること、という想いが込められており、このキャッチフレーズは2012年の第1回 JASIS から変えられていません。しかし展示会の内容は毎年進化し、今年も多くの進化を見ることができました。

「未来を創る、分析・科学機器のいまを知る」という



写真1 JASIS2018 展示会場の様子

テーマのもと、当展示会では二つの大きな特別企画が催されました。その1つ「ライフサイエンスイノベーションゾーン」（写真2）は、分析機器と最先端バイオ創薬の融合領域を知るために設けられ、人工知能（AI）や深層学習（Deep Learning）の応用例を交えた基調講演・討論会、展示が行われていました。今年はこのゾーンでは過去最多となる75社が出展し、特筆すべきは、PIT-TCON（世界最大級の研究・実験室設備機器関連の展示会）、および Enabling Technologies Consortium (ETC) との合同セッションの開催です。会場では、多くの参加者が熱心に討論会を聞き入り、また、講演中にリアルタイムに聴講者が質問やコメントを、スマートフォンを使って投稿できるコメントライブシステムを利用し、活発な討議が行われていました。

もう一つの特別企画「オープンソリューションフォーラム」（写真3）は、関心が高い共通の課題をテーマとして設定し、著名な演者の講演と出展社による発表を行う企画で、一昨年より開催されていますが、本年は会場規模を200名（昨年130名）に拡大して開催されました。今年をテーマを「フタレート規制」「香りとおおい」「次世代電池」と具体的なものに設定し、六つの基調講演、出展企業による18のプレゼンテーションが行われました。講演は会場から人が溢れるほどの大盛況で、非



写真2 「ライフサイエンスイノベーションゾーン」会場の様子



写真3 「オープンソリューションフォーラム」会場の様子



写真4 新技術説明会の様子

常に来場者の関心が高い企画であることが伺えました。国際展示場に隣接するアパホテル&リゾート東京ベイ幕張、ホテルニューオータニ幕張内の会場では352テーマにも及ぶ新技術説明会(写真4)が行われました。出展企業各社が、自社の製品及び分析法などの技術動向、実際の分析にあたっての参考情報などを説明するものです。発表は各社における分野及び機器の専門家が直接説明を行っている上、目的の会社の情報を的確に得ることができることも魅力となっています。新製品、新技術に加え、その分野の基礎的な解説を行うテーマも数多く開催されました。この会場には多くの聴講者が詰めかけ、各回入れ替え制であることから前の講座の終了とともに、次の講座に参加するために並び直す姿も見られました。これを目当てにJASISに来場される方も多く、来場者も満足そうに会場を後にしておられました。

国際会議場では関連各学会、団体や主催者主催の52のセッションが例年どおりJASISコンファレンスとして行われていました。「国際コンファレンスセッション」では、アジアテクニカルフォーラム、英国王立化学会東京国際カンファレンス、中国フォーラム、日韓技術交流セミナーがあり、どれも十分な数の同時通訳用イヤホンが用意されており、来場者に大変配慮して頂いていました。また、英国王立化学会主催の東京コンファレンスでは、若手研究者によるプレゼンテーションやポスター展示も行われていました。これらの国際セッションでは最新分析技術の紹介もありますが、各国の分析機器市場についての解説がされていました。「日本薬局方セミナー」が開かれ、これも恒例となってきました。定員500人の会場で行うことから関心の高さが伺えました。同じ大会場では日を変えて一般向けのJASIS2018サイエンスセミナー(写真5)も開かれ、本年は「料理の科学：加工、加熱、調味、保存のメカニズムは」というテーマで一般の消費者の視点に立った講演が行われました。

またの長谷川委員長から、目玉の一つであるWebExpoについてお話を伺いました。WebExpoとは、従来の会期、会場に縛られず、150日間、どこからでも参加、出展できることをコンセプトにWeb空間に創られたセミナー及び展示会場です。実際に来場できなかった方や講演を聞き逃した方の要望に応えるため、WebExpoの実現に至ったとのことでした。ライフサイエンスイノベーションゾーンとオープンソリューションフォーラムの基調講演の動画が公開され、Web上で実機や新技術を体感することが可能になりました。JASIS WebExpo



写真5 サイエンスセミナーの様子

2018は、前期(7月3日(月)より)と後期(9月14日(金)~12月20日)にWeb上で開催されます。今年の8月末でのアクセス状況を見ると昨年の同時期に比べて2倍近くのアクセスがあり、延べ閲覧コンテンツ数も3314(昨年同時期1450)、サイトでの平均滞在時間も約41分(昨年25分)と大変好評を得ています。2019年度には企業出展ブースの本格的に提供が開始されます。

JASIS 2018では、ここで紹介できなかった様々な企画、セミナー、展示も数多く用意されており、まさに分析関係者のためのビッグイベントとなっていました。来年のJASISは2019年9月4日(水)~6日(金)に幕張メッセで開催されます。キャッチフレーズは「未来発見。~最先端科学・分析システム&ソリューション展~」。そのフレーズに込める想いを長谷川委員長に聞きました。「装置だけではなくソリューションも提供していくことによって、機器が持つ最先端の性能を発揮させ、そして社会の最先端技術を支えていく。それを支える最先端のグローバルな展示会を目指す、というメッセージを込めています」と熱い思いを語っていただきました。「この運営企画に1年以上費やされている」とのお話で、そのご尽力に頭が下がる思いでした。その根拠を支える想いを長谷川委員長に語っていただきました。「競合メーカー同士が集まってJASISの企画と運営を行います。自社のことだけを考えるのではなく、自分たちの業界のためにやる。競合メーカーが集まって試行錯誤しベクトルを合わせるのが本当に大事で、その強みがJASISを成功させています。競合メーカーと一緒に協力してつくった土俵に集まって頂いたお客さんに、正々堂々と、各メーカーアプローチしていきたい。そしてお客さんに各社の成果を評価して頂きたいと思っています。そんな思いを持って分析機器メーカーがタッグを組んでこの展示会を成功に導いています。その想いと輪が崩れたときに、JASISはきっと衰退していきます。」分析機メーカーさんのこの熱い思いこそが、この展示会のみならず、分析機器、分析化学の発展を支えているのだと、長谷川委員長のこのお言葉に感銘を受けました。

最後に、取材にあたって貴重な時間を割いていただいたJASIS委員会及び事務局の皆様、運営に携わられた皆様に、この場を借りてお礼申し上げます。

アサヒビール株式会社 岸本 徹
JFEテクノロジー株式会社 望月 正